

クロス集計分析結果の報告

第3回委員会で詳細な分析の要望があった事柄についてクロス集計を実施した。
クロス集計結果の中から、傾向がみられたものを示す。

1.問題を抱えやすい世帯の特性を探る

(1)父親と母親で子育て意識は異なるか？

クロス分析項目	結果	Data
回答者の属性	父親よりも母親の方が、子育てに関して「つらい」、「自信がなくなることがある」、「子育てが嫌になることがある」といったマイナスの意識を持つ人が多い。「子どもをたたいてしまうこと」が「よくある」とする比率は父親も母親も同程度だが、父親は「ない」とする比率が母親よりも多い。	Data 1

(2)子育てについてマイナスの意識を持つ世帯はどのような世帯か？

子育てについてマイナスの意識を持つ世帯の属性の分析

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てに関して「つらい」、「自信がなくなることがある」といったマイナスの意識を持つ人は、三世帯世帯<二世帯世帯<ひとり親世帯の順で多い。 ● 「子どもをたたいてしまうこと」が「よくある」とするのは、就学前児童調査ではひとり親世帯で多い。 	Data 2
末子の年齢	● 顕著な違いはみられず	-
母親の年齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生児童調査において、母親の年齢が若いほど子育てに関して「自信がなくなること」、「子育てが嫌になること」、「子どもをたたいてしまうこと」が若干多い傾向あり。 ● 就学前児童については、母親の年齢による顕著な違いはみられなかった。 	Data 3
共働き状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学前児童調査では、共働きでない方が「自信がなくなること」、「子育てが嫌になること」が多いが、共働きの場合には「子どもとゆったりした気分で過ごす時間」は少ない。 ● 一方、小学生児童調査では、「子育てが嫌になること」は就学前児童調査と同様に共働きでない方が多いが、「子育てに自信がなくなること」は共働きの方が多くなっている。 	Data 4
主な保護者の就労状況(就労形態)	● 就学前児童調査では、主な保護者の就労形態が「常勤の勤め人」の場合、他の就労形態に比べて子育てを「とても楽しい」と感じる割合が高いなど前向きな意識傾向だが、「子どもとゆったりした気分で過ごす時間」は少ない。	Data 5

周囲の関わり状況は子育て意識に影響しているか？

クロス分析項目	結果	Data
配偶者の子育てへの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てについて「つらい」「自信がもてなくなる」「子育てが嫌になる」というマイナス意識を持つ人は、『あまり協力的でない』人が『非常に協力的である』人の2～3倍多い。 ● 「子どもをたたいてしまう」に関しては配偶者の関わりの有無によつての差はあまり見られない。 	Data 6
配偶者と子どもの事について話す程度	● マイナス意識の統計は「配偶者の子育てへの関わり」と似た傾向がある。しかし『ほとんど話さない』、『ときどき話す』人が「子どもをたたいてしまうことがある」と回答している率が高い。	-
世話を頼める親族や友人・知人の有無	● 子育てについてのマイナス意識に顕著な違いは見られないが、「子どもとゆったりした気分で過ごす時間」は、「特に頼める人がいない」人より「頼める人」がいる人の方が多い。	Data 7
子育て仲間の有無	● 子育てについて「とても楽しい」と感じている人は「預けるくらいの仲間がいる」、「話をする仲間がいる」、「いない」の順で多い。逆に「つらい」、「自信がもてなくなる」と感じている人は、仲間がいない人の順に多い。	Data 8
子育てサークルへの参加状況	● 顕著な違いは見られない。	Data 9

子育て支援サービスなどの利用状況は子育て意識に影響しているか？

クロス分析項目	結果	Data
保育サービスなどの利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て意識については、顕著な違いはみられなかった。 ● 保育サービスなどを利用している場合の方が、「子どもをたたいてしまうこと」が「ある」と回答する割合が高い。また、「子どもとゆったりした気分で過ごす時間」が「ない」とする割合も高い。 	Data 10
地域の子育て支援サービスの利用状況	● 顕著な違いはみられないが、「子育てに自信がなくなること」がサービス利用者の方が多い。	Data 11
子育て相談の利用状況 (複数相談窓口利用者のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て相談を利用している場合の方が、子育てについて「つらい」、「自信がなくなることがある」、「子育てが嫌になることがある」といったマイナスの意識を持つ割合が高い。 ● 「子どもをたたいてしまうこと」が「ある」とする割合、「子どもとゆったりした気分で過ごす時間が」「ない」とする割合も、いずれも子育て相談利用者の方が多い。 	Data12

(3) 問題の複合化の現状はあるか？

子育て意識(問9)の各項目について、「特にない」+「たまにある」を「プラス意識」、「ときどきある」+「よくある」を「マイナス意識」とカテゴライズして、小項目間のクロス集計を行う。
各項目について、「マイナス意識」を有する個数の別に発生率をカウントする(例えば、6項目中5項目でマイナス意識を持つ世帯が何%にあたるのか?)

分析項目	結果	Data
子育て意識小項目間の関連性分析	● 子育て意識の小項目間の関連性を分析したところ、例えば子育てが「つらい」と感じている回答者は、同時に子育てに「自信が持てない」、「子どもを嫌になることがある」、「たいていしまう」と感じている場合が多く、子育てに関するマイナス方向の意識・実態を重複して有していることがわかった。	Data 13
マイナス意識の個数分布	● 同じ世帯が複数の問題を複合的に抱えているかを分析するために、マイナス方向の意識・実態の個数の別に発生率をみた。 ● 1つ以上の問題を有する割合は、就学前7.6%、小学生9.1%であり、うち3個以上の問題を有する割合は就学前4.5%、小学生6.6%である。	Data 14

2. サービス利用意向を持つ世帯の特性を探る

(1) トワイライトステイ事業を利用したい世帯はどのような世帯か？

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	● 「ひとり親世帯」で利用意向が高い。 ● 「二世帯世帯」と「三世帯世帯」では顕著な違いはみられない。	Data 15
子どもの人数	● 子どもの人数が「1人」など少ない世帯の方が利用意向が高い。	Data 16
主たる保育者の就労状況	● 「常勤の勤め人」の場合に利用意向が高い。 ● N数は少ないが、「契約社員・派遣社員」、及び小学生の「自営業・家族従業」、「在宅勤務・内職」も利用意向が高い。	Data 17
主たる保育者の就労場所(就学前)	● 主たる保育者の就労場所が「市外」の方が利用意向が高い。	Data 18
配偶者の子育てへの関わり	● 明確な傾向はみられないが、就学前でN数は少ないが「協力的でない」場合に利用意向が高い。	Data 19
世話を頼める親族や友人・知人	● 近く等に頼める人がいる場合の方が、利用意向が若干低い。	Data 20
子育て仲間の有無	● 「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」場合の方が、利用意向が若干低い。	Data 21

(2) 病後児保育を利用したい世帯はどのような世帯か？(就学前のみ)

利用意向を以下の3類型にカテゴリー化して被説明変数とする。

病氣中、病氣回復期の、

- ・いずれかについて「いつも」と回答した場合 「強い利用意向あり」
- ・いずれも「利用したくない」とした場合 「利用意向あり」
- ・それ以外 「利用意向なし」

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひとり親世帯」で利用意向が高い。 ● 「二世帯世帯」と「三世帯世帯」では顕著な違いはみられない。 	Data 22
主たる保育者の就労状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 「常勤の勤め人」の場合に利用意向が高い。 ● N数は少ないが、「契約社員・派遣社員」も利用意向が高い。 ● 「パート・アルバイト」も利用意向が低いわけではない(強い利用意向を25.9%が有する)。 	Data23
配偶者の子育てへの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 明確な傾向はみられないが、N数は少ないが「協力的でない」場合に利用意向が若干高い。 	Data24
世話を頼める親族や友人・知人	<ul style="list-style-type: none"> ● 「特に頼める人はいない」場合に、強い利用意向が多くみられる。 	Data25
子育て仲間の有無	<ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」場合の方が、利用意向が低い。 	Data 26

(3) 一時保育を利用したい世帯はどのような世帯か？(就学前のみ)

利用意向を以下の3類型にカテゴリー化して被説明変数とする。

緊急の用事、私用の、

- ・いずれかについて「いつも」と回答した場合 「強い利用意向あり」
- ・いずれも「利用したくない」とした場合 「利用意向あり」
- ・それ以外 「利用意向なし」

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひとり親世帯」で利用意向が高い。 ● 「二世帯世帯」と「三世帯世帯」では顕著な違いはみられない。 	Data 27
主たる保育者の就労状況	<ul style="list-style-type: none"> ● N数は少ないが、「契約社員・派遣社員」に利用意向が高い。 ● 「無職・家事専従」の23.8%が強い利用意向を示している。 	Data28
配偶者の子育てへの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 明確な傾向はみられなかった。 	-
世話を頼める親族や友人・知人	<ul style="list-style-type: none"> ● 「特に頼める人はいない」場合に、強い利用意向が多くみられる。 	Data29
子育て仲間の有無	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て仲間が「いない」場合に、強い利用意向が多くみられる。 	Data 30

(4) ショートステイを利用したい世帯はどのような世帯か？

利用意向(いつも利用したい/ときどき利用したい/利用したいと思わない)を被説明変数とする。

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひとり親世帯」で利用意向が高い。 ● 「二世帯世帯」と「三世帯世帯」では顕著な違いはみられない。 	Data 31
主たる保育者の就労状況	● 明確な傾向はみられなかった。	-
配偶者の子育てへの関わり	● N数は少ないが「協力的でない」場合に利用意向が若干高い。	Data32
世話を頼める親族や友人・知人	● 顕著な違いはみられないが、「近くに頼める人いる」場合に、利用意向が低い。	Data33
子育て仲間の有無	● 明確な傾向はみられなかった。	-

(5) 産後ヘルパーを利用したい世帯はどのような世帯か？

クロス分析項目	結果	Data
世帯構成 (ひとり親世代のN数が少ないことに留意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひとり親世帯」で利用意向が高い。 ● 「二世帯世帯」の方が「三世帯世帯」よりも利用意向が高い。 	Data 34
子どもの人数	● 明確な傾向はみられないが、子どもの人数が多くなるほど「利用したいと思わない」が多くなる(将来に出産意向がある方が、利用意向を示す割合が高いのではないかと解釈される)。	Data 35
主たる保育者の就労状況	● 明確な傾向はみられなかった。	-
配偶者の子育てへの関わり	● 明確な傾向はみられなかった。	-
世話を頼める親族や友人・知人	<ul style="list-style-type: none"> ● 顕著な違いはみられないが、「近くに頼める人がいる」場合に、利用意向が低い。 ● 「特に頼める人はいない」や「気軽ではないが、いざというときには頼める人がいる」などの場合に、強い利用意向が多くみられる。 	Data36
子育て仲間の有無	● 明確な傾向はみられなかったが、子育て仲間が「いない」場合に強い利用意向が若干多くみられる。	Data37

3.地域子育て支援サービスの利用状況に地区による偏りはあるか？

以下の6地区に区分して、サービス利用状況の地区による偏りを分析した。

第1地区： 多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町、浅間町、緑町

第2地区： 白糸台、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、日吉町、是政町

第3地区： 天神町、新町、幸町、府中町、寿町、晴海町、栄町

第4地区： 宮町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町

第5地区： 日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、東芝町、本宿町、西府町

第6地区： 美好町、分梅町、住吉町、四谷、日新町第1地区：

分析項目	結果	Data
ファミリーサポートセンター事業の利用状況	● 明確な傾向はみられなかった。	Data 38
親子で遊びにいたりするところ、集える場(就学前)	● 児童関連の施設の利用状況には地区によってばらつきがみられる(文化センター、しらとり、ポップコーンなど)	Data 39